



仁照寺花園だより

船子山 仁照寺
住職 江角弘道
電話:72-8379
携帯:090 4801 9676

新春を寿ぎ 皆々様の
ご安泰をお祈り申し上げます。

2年にわたり新型コロナウイルス感染が続いています。日本ではワクチン接種によりかなり収まりつつあるとはいえ、新型コロナ変異株「オミクロン株」の感染等まだ十分な安心・安全とは言えない状況にあります。私たち一人一人が感染予防に心掛けて生活したいものです。

旧年中はなにかとお世話になりありがとうございました。本年も相変わりにませず何卒よろしくお願い致します。 合掌

令和四年 元旦

本年の主要行事予定

- ・春の彼岸法要、定期巡教
中止とします。
- ・大本山妙心寺団体参拝
7月2日(土)～3日(日)の予定で実施検討中
- ・山門大施餓鬼法要・檀信徒総会
8月3日(水)に実施予定
- ・秋季研修会：出雲國神仏霊場巡拝
11月頃の予定で実施検討中
詳細につきましては別途ご案内いたします。

◇新年写経会◇

本年も中止とします。

山門大施餓鬼法要(令和3年8月3日)

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、本堂での法要は総代と世話役のみの参加により執り行いました。一般参加者の皆さまには、施餓鬼棚を向拝の下に置いて焼香と水祭を行っていただきました。生憎の猛暑日ではありましたが、30名の皆さまにお参りいただきました。

なお、例年法要の後に行っております檀信徒総会は中止としました。



昨年の住職の活動

昨年は下記のような事柄を発信しました。

1月29日(金) 開星高等学校で「命の授業」

1月31日(日) 山陰中央新報 **教えの庭から** にエッセイ「**椎の大木折れる**」

- 2月14日(日) 大東町春殖交流センター生涯学習部で講演
「いのちを見つめて」
- 3月 4日(木) 出東コミュニティセンターで講演
「童謡からのメッセージ」
- 3月19日(金) 出雲高等学校で「命の授業」
聴講された山根めいさん(2年生)の作品が
令和3年度「大切な命を守る」全国中学・高校生
作文コンクールにおいて「警察庁犯罪被害者支
援室長賞」に選ばれました。
- 3月21日(日) 山陰中央新報 **教える庭から** にエッセイ
「『心のワクチン』接種を」
- 5月 2日(日) 山陰中央新報 **教える庭から** にエッセイ
「大社基地のむかし」
- 6月 7日(月) 島根県立大学出雲キャンパスで招致講義
- 6月20日(日) 山陰中央新報 **教える庭から** にエッセイ
「南無地獄大菩薩」
- 6月23日(水) 島根大学で犯罪被害者支援に関する講演
- 6月28日(月) 松江市立東出雲中学校で「命の授業」
- 6月30日(水) 出雲市立斐川東中学校で「命の授業」
- 8月 1日(日) 山陰中央新報 **教える庭から** にエッセイ
「飲酒運転の根絶を」
- 9月19日(日) 山陰中央新報 **教える庭から** にエッセイ
「結婚祝いの仏壇」
- 10月31日(日) 山陰中央新報 **教える庭から** にエッセイ
「幸せはどこから」
- 11月18日(木) 松江市立第四中学校で
「命の授業」
- 12月 6日(月) 安来高等学校で「命の授業」
- 12月19日(日) 山陰中央新報
教える庭から にエッセイ
「般若心経を唱える効用」

出雲高の山根さん 警察庁支援室長賞 大切な命を守る作文コン

2021年度「大切な命を守る」全国中学・高校生作文コンクール(警察庁主催)の高校生の部で、出雲高校2年の山根めいさん(16)が警察庁犯罪被害者支援室長賞を受賞した。業の一環で飲酒運転事故被害者の家族の講演を聞き、

賞で、高校生の部に5567件の応募があった中、山根さんら11人が選ばれた。1年生だった3月に、授



「生命のバトンタッチ」と題した感想文を書き上げた。紙面編集・戸谷 隆広

者、加害者をこれ以上増やさないように、みんなの少しのやさしさや気遣いが増えるといいなと思います」と締めくくった。

3日に山根さん(出雲市塩治有原町2丁目)で表彰式があり、山根さんはお酒を飲んだら自転車も車も絶対に乗ってはいけないと周りに人にも言いたい」と振り返った。(井上雅子)

警察庁犯罪被害者支援室長賞を受賞した山根めいさん(出雲市塩治有原町2丁目、出雲)

令和3年12月17日付 山陰中央新報

今大切に生きて

【松江】1999年に飲酒運転事故に巻き込まれ、娘を亡くした江角弘道さん(76)は出雲市斐川町神水(76)の講演会がこのほど、松江市西津田10丁目の市立第四中学校であり、生徒約650人が命の尊さを学んだ。事故は99年12月26日、鳥取大3年生だった次女真理子さん(当時20)が、鳥



命の大切さを訴える江角弘道さん(松江西津田10丁目、市立第四中学校)

取県智頭町内の国道で友人が運転する車に同乗中、対向車線をはみ出した飲酒運転の車と正面衝突して命を奪われた。

江角さんは事故後、突然家族を奪われた深い悲しみで「一体と心がぐちゃぐちゃになった」と当時の心境を振り返り、「事故の加害者にも被害者にもならないで取大3年生だった次女真理子さん(当時20)が、鳥

「ほしい」と訴えた。当たり前の日常がどれだけ素晴らしく幸せなことを説いた上で「夢をかなえるためには死なないこと、夢をかなえるために今を大切に生きてほしい」と語り掛けた。講演を聞いた3年の京拓音さん(15)は「自分の命のありがたさを感じながら生きていきたい」と話した。(原暁)

令和3年11月26日付 山陰中央新報

教えの庭から

仏壇は、本尊様(仏様)

と先祖様の位牌(いはい)がまつつてあるところ。その中心は本尊様です。そこが、実は家の中心であり、そのおかげで家族は生かされていると考えられます。

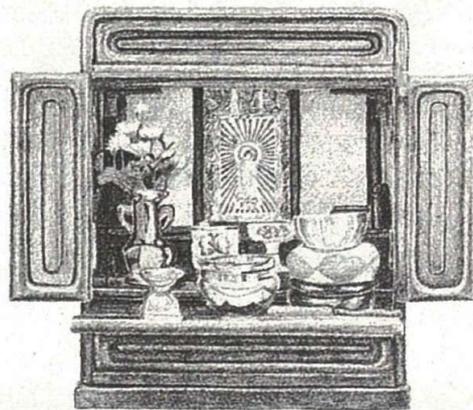
私たちの「いのちの営み」そのものが、太陽光や空気や水や食べ物とのつながりなしには不可能です。そのような「大自然のおかげ」があつてこそ、人類は生きていくというより、生かされています。そこを仏教では、仏様の「おかげ」で生きていくといえます。そのことが、生きていく中心と考えられます。仏様に生かされていることを感謝する場所が仏壇なのです。

檀家様が、新しく仏壇を購入されたときは、本尊様と位牌に魂を入れてもらう開眼供養をするのが慣わし

結婚祝いの仏壇

出雲市斐川町・仁照寺住職 江角 弘道

です。その時、捕らえた魚間があり、その横に仏壇がなどの生きものを解放してありました。それらは家の自由にする「放生会」とい中心です。ところが第2次「慈悲の実践」をし、世界大戦後、とにかく住めず。昔は、放生会に使う魚ればよいのだと、住宅都市は、近くの小川で、すぐに整備公団の人たちが仏壇も



挿絵 平尾恵郷

地域の中心として祭りなどをする役割をしてきていま。その要旨は、「父から渡した。そして、家には仏壇と神棚がありました。最近はその役割が減ってきました。ない気がしてきます。いつ

全国に普及した新興住宅団地ではスーパーマーケットなど生活するのに必要な店はありませんが、お寺もありません。村や町から中心が消えて行きつつあります。人間には生きていく中心がないと、虚無的になって行きます。家に中心がないと、やがて家庭はバラバラになってゆきます。学校でも会社でも国家でも、長と悪い、なんて思っています。私には長女が結婚するとき

に家庭には中心が必要だの思いを込めて、祝いに仏壇を贈りました。娘はそれを「結婚祝いの仏壇」というエッセーで、本(12年、熊平製作所発行)に転載されました。

捕獲できましたが、今はないし床の間もない、ただなくて、やむなく生きた魚を売っている店で購入して用意されるようになりまし

昔の日本の家には、床の昔はお宮やお寺は、その

011年8月号)に書きま